翻訳内容：

1. 自己紹介と日本留学を選択した理由：

わたしは曾乙正です。国立三重高等学校卒で、2012 年 9 月から国立東華大学台湾文化学科（Department of Taiwan and Region Studies）に入りました。今はもう 4 年生で、今年の 6 月に卒業する予定です。学校では、興味と授業のおかげで、台湾歴史・地域研究・地理情報システム・文化財等の授業にたくさん触れることができました。台湾歴史を勉強しながら、日本統治時代の台湾（1895～1945）に強い関心を持つようになりました。台湾の人民はこの台湾島にずっと生活しているものの、台湾の政治に影響されるため、日本統治時代のときからの記憶を忘れさせられることになりました。文献と歴史をさかのぼったら、台湾と日本は一衣帯水の隣国だということと、元台湾総統李登輝の「日台は運命共同体」という主張を認識してきました。

日本語の勉強については、大学 1 年生の後期からのことです。五十音から勉強し、二年生の後期のとき、もっと成長したいため、日本語の塾に半年間通っていました。そして 2015 年 7 月に、日本語能力試験の N3 に合格することができました。しかし、日本語の聞く・話す・読む・書くという 4 技能をまだまだ磨かなければならないと思います。今は国立東華大学台湾文化学科の大学院に入学する資格を取得することができましたから、論文についても考え始めました。仮定の研究テーマは「邊陲中的邊陲：日治時期八重山諸島之台灣移民研究 (Beyond the Margins: A Study of Taiwanese Immigrants in Yaeyama Islands in Japanese Colonial Period)」というテーマです。関連文献を探して読んでいると、中国語と英語を除いたら、日本語の文献が大きく多数を占めていることに気付きました。それで、日本語がもっと堪能になって文献を読めるようになりたいため、慶應義塾大学の日本語研究課程への入学を希望しています。ちゃんと勉強計画を立て、一年間で日本語の環境で弛まずに頑張ったら、日本語の聞く・話す・読む・書くという四技能を高めることができると思います。そして、将来日本の大学院へ進学するという目標を持っているため、それなりの基礎もきちんと築く必要もあると思います。（文末に研究計画書を添付します）

2. 慶應義塾大学入試の志望理由：

大学 2 年生になってから、当校の台湾文化学科の郭俊麟という先生の人文社会研究センターで、助手として研究・教科・科学技術研究所の仕事を約 2 年間していました。郭俊麟先生は慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科出身で、よく研究室の会議で慶應義塾大学の話をしてくれます。それで、わたしは日本へ留学することに興味を持つようになりました。

それに、慶應義塾大学の創立者――福澤諭吉の教育に対する考え方をとても尊敬します。福澤諭吉が「独立自尊」という思想を慶應義塾大学の塾訓として、教育の基本に置くことに感心するだけではなく、自由で開放的な校風のため、学校は外来の文化もたくさん受け入れてくれるそうです。教師・学生・卒業生は仲良く助け合ったりするのも聞きました。学校の設備において、慶應義塾大学の日本語研究課程が普段の日本語専門学校と違うところは、キャンパス内の施設を利用できることだと思います。特に慶應義塾大学図書館の蔵書数も多いので、論文や参考文献について探すことにとても役に立つと思います。それに、「学習段階」が 8 級に達したら、大学と大学院の授業にも行けます。慶應義塾大学の日本語授業・日本文化とほかに豊富な内容のある自由科目授業を受けることにより、日本語力を高めることに更に役に立ちますし、英語力も共に成長できると思います。以上の理由から、慶應義塾大学の日本語研究課程を志望します。

3. 日本語研究課程に入った後の勉強計画：

３段階に分けた学習計画を、剣道の修業における段階「守・破・離」に例えてみます。

まず最初に、「守」です。入学する前に台湾での事前準備については、2016 年 7 月に行われる日本語能力試験の N2 に合格することを目指しています。そして早く日本の生活に適応できるように、聞く・言うという 2 つの技能をもっと練習しようと思います。慶應義塾大学に入ったら、日本語の聞く・言う・読む・書くという 4 つの技能を勉強し続け、学習段階の 8 級に達して大学の授業を受けられるように頑張りたいと思います。ほかには自由科目を履修することにより、日本の歴史・文化・東アジア地域の国際関係などを深く理解したいとも思います。以上は前期の目標です。

次に、「破」です。日本にいる間に日本語能力試験の N1 に合格し、慶應義塾大学の日本語研究課程にて学習段階 8 級に達して大学文学部の授業を受けたいと思います。授業で日本人の学生と交流し、たくさんのテーマをめぐる議論もしたいと思います。議論とテーマを分析することにより、日本語の会話力と論理的に意見を述べる能力を向上させようと思います。そして、日本人の学生と交流しながら、日本文化の価値観と民族性についてもっと理解したいと思います。以上は後期の目標です。

最後に、「離」です。日本語研究課程が終わったら、大別すると 2 つの方向があります。1 つは、日本の大学院に申し込むことです。地理・地域を主とする研究領域（例えば：慶應義塾大学の政策・メディア研究科と早稲田大学のアジア太平洋研究科）を選択したいと思います。この目標はわたしの論文の研究計画の続きとして考えます。もう 1 つは、日本で就職することです。仕事することにより、実務経験を通して国際的な視野を広げ、コミュニケーション能力を上げたいと思います。そして、希望する仕事は、日台の交流を一層促進することができる職務だと思います。以上は、日本語研究課程が終わってからの目標です。

中文原文：

1. 個人簡介與日本留学を選択した理由：

我是曾乙正，國立三重高中畢業，2012 年 9 月進入國立東華大學台灣文化學系（Department of Taiwan and Region Studies）就讀，現為大四生，將於今年 6 月畢業。在大學時代，我因為興趣與修課的緣故開始接觸大量有關台灣史、區域研究、地理資訊系統、文化資產等課程。在修讀台灣史過程中，我對於日治時期下的台灣(1895-1945)充滿了強烈興趣，臺灣人即使久居於這塊島上，並長期的在這塊土地生活，但卻因台灣內部政治因素，使大部分人民被迫將此時期的台灣記憶抹除；我也在閱讀文獻與爬梳歷史的過程中逐漸意識到，台灣與日本一衣帶水的裙帶關係，與前台灣總統李登輝所說到的日台是命運共同體的概念。

日文學習的部分，則是在大一下學期開始有第一次的接觸。我從基礎五十音開始學習，到大二下時，為了更增進自己則選擇在日語補習班修習了半年，並於 2015 年 7 月通過日本語能力檢定 JLPT N3 的考試；然而，對於日文的聽、說、讀、寫方面還是相當不足。目前個人在台灣已取得國立東華大學台灣文化學系研究所的入學資格，也以對於論文開始有所著墨與想法，暫題為：「陲中的邊陲：日治時期八重山諸島之台灣移民研究」(Beyond the Margins: A Study of Taiwanese Immigrants in Yaeyama Islands in Japanese Colonial Period)」，在我尋找、閱讀相關文獻的過程中，除中文、英文外文獻外，日文佔極大部分之比例，因此為了能讀懂日文文獻與流利使用日文，我希望能申請上慶應義塾大学的日本語別科就讀，並妥善規畫學習進度，相信在一年的日本語環境中努力，便能加強自己日本語的聽、說、讀、寫能力，也為自己日後有志神請日本的研究所打下良好基礎。(文末附上研究計畫書)

2. 慶應義塾大学の志望理由：

從大二開始，我在系上郭俊麟老師的人文 GIS 研究室協助老師做研究、教學輔助、以及科技部計畫助理等事務約有兩年多。郭俊麟老師畢業於慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科，時常在研究室會議中與我們分享過去於慶應義塾大学時的種種，這點使我開始對前往日本留學產生興趣。

此外，我非常欣賞慶應義塾大学的創辦人福澤諭吉對教育的思考，他將「独立自尊」與民主思想做為慶應義塾大学教育的基本價值，並有自由開放的學風，學校對外來事物包容性極強，在師生、校友之間則有著濃厚友善互助關係。以學校的優勢來看，慶應義塾大学日本語別科相較於一般日本語專門學校不同的地方是，可以使用大學內附屬設施；尤其該校圖書館豐沛的藏書量，使得我更對尋找論文或相關題目之參考文獻是極為方便的，且「学習段階」達 8 級者，還能修習大學部或研究所之課程。該校其他領域中扎實的日本語課程、日本文化與其他豐富的自由科目課程，相信能幫助我更有效提升日文能力的學習，在英語方面也能有所增長。總和以上因素，我選擇慶應義塾大学的日本語別科。

3. 日本語研修課程に入学後の学習計画：

我以日本劍道的學習方法「守破離」(しゅはり)為例，希望作我的學習計畫三階段。

第一，「守」。入學前在台灣的準備，以 2016 年 7 月的日本語能力檢定 N2 通過為主要努力方向，並為了能早日適應日本生活，加強練習聽力與口說部分。到了慶應義塾大学後，則繼續努力學習日本語的聽、說、讀、寫，並以達到學習階段 8 級，才能修習大學課程；另外，我亦希望修習自由課程部分，讓自己更深入了解日本的歷史與文化與東亞區域關係。綜合以上作為最主要的前期目標。

第二，「破」。在日本期間考取日本語能力檢定 JLPT N1，於慶應義塾大学日本語學習階段達到 8 級並修習大学文学部之課程，希望能在課程中多與日本同交流與議題性的討論，藉討論與議題的分析強化日本語的溝通與敘述能力，再越上手後，並能在交談過程中，對日本文化的思維方式與民族性有更進一步的了解。以上作為後期目標。

第三，「離」。日本語研修課程結束後，有兩個未來計劃方向，一是申請日本的研究所，

主要以地理、區域為研究領域（例如：慶應義塾大学的政策・メディア與早稲田大学的アジア太平洋研究科等等），這個想法則是延續在我論文的研究計畫。另一方向，則希望自己能在日本就職，增加自己在實務經驗中的國際視野與溝通能力，並以促進日台雙方交流之工作為主要考量。以上作為我日本語研修課程結束後的目標。